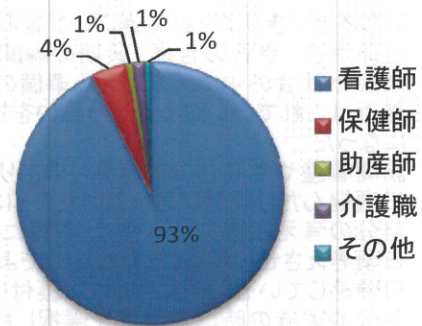


平成25年度 講演会アンケート集計結果

テーマ・講師	在宅で平穏死を迎えるために	講師:長尾和弘先生
--------	---------------	-----------

アンケート回収内訳

所属	職種	看護師	保健師	助産師	介護職	その他	計
病院		109		1	2	1	113
訪問看護ステーション		7					7
老人保健施設		6					6
その他		5	6				11
未記入		1					1
計		128	6	1	2	1	138



■ 講演会についての意見・感想

【看護師からのメッセージ】

- ・ 患者に「在宅でも看取れますよ」と医療者側から発信していくことも大切だと思った
- ・ 在宅を希望する患者は多く、フォロー体制が整えば戻れる方も多くいると思う。考えさせられる講演だった
- ・ 在宅医療を受ける患者の最期時の救急搬送にはいつも考えさせられる。患者の意思？家族の意思？施設、医療者、救急隊の意思？
- ・ 意思決定は本人はもちろん家族の話し合いが必要だと思う。先生の言われる様々な経験とそのシミュレーションが必要だと思う
- ・ 100歳近い方を病院でみているが、もっと穏やかな死を迎えることができないのか考えさせられた
- ・ ターミナルの患者にも、家族と医師が治療方針を決定するのではなく、患者にとって何が幸せか難しいが、「在宅」という方向も私たちがすすめていくべきだと思う。
- ・ 「死ぬときに医師はいらない」「看護師に患者の隣にいてあげてほしい」という言葉を聞き、業務ばかりで中々病室に看護師がいらないという現状をあらためて考えることができた
- ・ 延命治療が本人にとって安楽であったか悩むことがある。医師の平穏死の考え方も今後考えなければならない問題だと思う
- ・ 家族の受け入れとそれを見守るチームが必要。地域包括ケアの充実が不可欠だと思う
- ・ 理想と現実とのギャップ、家族の思いと医療従事者の重い差など、日々の看護の中で考えながら関わっていくことが大切であることを痛感した
- ・ 在宅での看取りは、介護者にとっても大変なので、他職種で関わっていくことが必要だと思う
- ・ 在宅での平穏死の現実を生言葉で伝えて戴き、自分の施設での看取りについても考える機会になった
- ・ 生き生きとした表情で在宅で過ごされている様子を見て、病院で死を迎える以外の方法も考えていきたい
- ・ 日々少しでも在宅の方向にと考えているが、なかなかタイミングやサポート力の弱さがあり、実現困難。患者の希望がかなえられるよう努力しようと思う
- ・ 「その人らしく生きる」ことを考えながら、患者様や家族、自分のこれからを考えていきたい
- ・ 医師が24時間いない、職員が看取りへの知識がないという理由で施設での看取りを行っていなかったが、「死には医師は必要ない」ときき、利用者の死について死の迎え方について考えなければいけないと思った
- ・ 平穏死の概念を理解でき、これからの人生観や看護観に活かしていきたい
- ・ 病院でもいい看取りができるのではないかと感じた。看護師の力を発揮したい
- ・ 病院の中で「平穏死」は語れない？ 急性期医療の現場にいる医療者のジレンマ
- ・ 自分の考える平穏死は先生の考えと少し違い、どういったものが平穏死なのか考えさせられた
- ・ 自分の最期を想像できないが、自分に摂って一番よい看取りについて考えていきたい
- ・ 明日から通常の生活に戻り、この感動が薄れてしまうのではないかと。平穏死の考えが普及すればよいと思う。
- ・ 現実とのジレンマを感じながら、とにかく向き合っ話し合う、コミュニケーションを大切にしたい
- ・ 新人看護師でどう対応できるか不安だが、これから自分の看護師としての役割、できることが見えた気がする
- ・ 急性期病院の現状と患者の望むことは必ずしも一致していない、難しいと思う
- ・ 退院調整に関わっているので、在宅医療の現状が理解できた
- ・ 患者を生活者としてとらえることの大切さ、人を尊重することを実感した
- ・ 患者や家族にどのように関わっていくか悩んでいたのが光が見えた気がする

- ・ 平穏死に近い看取りが増えている中で、参考になる講演だった
病院と在宅での死に対する考え方の違いを知ることができた。今後の仕事に活かしていきたい
- ・ その人がどのような死を迎えたいのか、その人と私たちが向き合えないといけないと思った
- ・ 最期のあり方をより一層考えた
- ・ 死と向き合うことを本当に考えていきたいと思う
日々自分が行っている援助が看護ではなく、業務になっていたことを反省した
- ・ 平穏死の考えを広げようと思う
- ・ 在宅をすすめる力をつけたい。実現できるスタッフになれたらと思う
- ・ この地域でも在宅で死を迎えられるシステムができることを願う
- ・ 家族をぎりぎりまで家で過ごして看取った。平穏死だったと思うが、間違っていなかったと少し楽になった
- ・ 延命治療、患者の苦痛、最期の瞬間の心の内に興味があり、在宅での看取りの現状が参考になった
- ・ 高齢化社会の中で死を迎える準備の必要性が理解できた。
- ・ 最近はこれでいいのかという思いを持つつつ業務していたので、もう一度自分が何をすればよいか考える機会になった
- ・ 訪問看護やサ高住での看取りのあり方について参考になった
- ・ 日頃悩んだり疑問に思っていたことに答えが得られたと思える内容だった
- ・ 自分の考えと同じことが多く、看護に自信を持って患者に関わっていこうと思う。
- ・ 日頃考えさせられることだったのでよかった
- ・ 日頃感じている「死」について、裏付けできたようで嬉しかった。
- ・ 自分や家族の時は自然死を選択したいとあらためて思った
- ・ 少しでも患者の思いを受け止め、傍にいてあげる姿勢を持ちたい
- ・ 患者の思いに沿った看護医療について、再度考え直す機会になった
- ・ 在宅医療の重要性はわかっていたが、自分自身の在宅での看取りの敷居がなくなった
- ・ 在宅での終末期看護で、対象にどのように関わることが必要か見えたように思う
- ・ 施設で働く看護師として穏やかな死を支援していきたいと感じた
- ・ 在宅での看取りをいくつも経験し、在宅は大切だがこれからも頑張ろう思った
- ・ 日々自分が行っている援助に、時に迷いや悩みもあったが、間違いはないと背中を押して戴いたような気がする
- ・ 人間としての生き方に、最後に関わる看護師の職業に就けて幸せ
- ・ 医師にもこの講演を聴いてほしい
- ・ 長尾先生のよな医師が増えてほしい
- ・ 死を穏やかに迎えるための、在宅、訪問看護の連携が充実してほしい
- ・ 先生のような在宅医が地域に増えることを期待する
- ・ 死が他人事だったようだと言った
- ・ 先生の声もよく引きつけられる講演だった
- ・ 長尾先生の在宅を目指すことになった人生体験を伺いよかった
- ・ 具体的な例もあり、わかりやすく考えさせられた
- ・ 笑って泣いて、いつもと違う講演で、スツと心に入ってきた

【保健師・介護職からのメッセージ】

- ・ 在宅医療の大切さがよくわかる内容だった
- ・ 自分の希望する看取りの場所が様々な中、その希望に対応され、患者のための看取りが行われていると思った
- ・ 退院支援を行う中、本人の思いはわからない所も多いが、家族の思いに寄り添い仕事をしていきたい
- ・ 難病患者の在宅での終末期への関わりを振り返って考える機会になった
- ・ 患者に寄り添うことの大切さを実感した
- ・ 今までと違った視点で、今後の取り組みを根本から考え直す機会になった

【要望】

- ▶ 性格のよい患者を診られているのでしょうか。家族の悩み、ストレスももっと取り上げてほしい
- ▶ テーマが大きかったので、「平穏死」の中の「胃ろう」「家族との関わり」など一つに絞ってもよかったのではない
- ▶ もう少し地域包括ケアの内容について聞きたい
- ▶ 講演の時間がもう少し長くてもよかった

職種	看護師	128
	保健師	6
	助産師	1
	介護職	2
	その他	1
	計	138